

「BEACON 2030 Phase I」の 最終年度である第73期

Phase Iのテーマである「基盤の強化」を完遂します

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。
当社グループは、2023年9月30日をもちまして第73期上半期を終了いたしましたので、ここにその概要をご報告申し上げます。

代表取締役社長執行役員

萩野 博一



株主様をはじめとする

全てのステークホルダーの皆様へ

未曾有のコロナ禍を乗り越え、世界中で人々の命や健康への意識が高まっています。日本光電は、1951年の創業以来、「病魔の克服と健康増進に先端技術で挑戦することにより世界に貢献すると共に社員の豊かな生活を創造する」という揺るぎない経営理念のもと、医療現場に根差した製品・サービスの提供に努めてきました。コロナ禍を経て医療のDXが加速するなど、医療環境は大きく変化していますが、創業時の信念は、今も変わることなく日本光電グループ全社員の中に受け継がれています。当期は中期経営計画「BEACON 2030 Phase I」の最終年度となりますが、「世界中の人と医療の未来を導く光になりたい」という想いを込めて策定した長期ビジョン「BEACON 2030」の実現に向け、「基盤の強化」を完遂します。

第73期上半期の主な取り組み

当上半期は、4月にリスクマネジメント委員会を新設しました。リスクアセスメントで特定する重要リスクへの対応方針を策定し、全社的リスクマネジメント体制の高度化を推進します。生産・物流部門においては、生産・販売・在庫状況の可視化および一元管理を開始し、在庫適正化に取り組んでいます。品目毎の在庫

水準の見直しや余剰在庫リストに基づく販売促進などの追加対策により、目標水準までの在庫削減を目指します。サステナビリティの推進においては、人的資本経営に関する情報開示を拡充したほか、前期から全社員を対象に開催してきたサステナビリティ・ディスカッションを完了しました。7月には、[コーポレートサイトをリニューアル](#)し、「[日本光電のブランド](#)」ページを新設するなど当社の強みや戦略等のコンテンツを充実しました。株主の皆様が当社への理解を深めていただく一助となるよう、より一層の内容充実を努めます。

当上半期は、国内では、医療提供体制の見直しが進められるとともに、医師の働き方改革に向けたタスクシフトや業務の効率化が推進されました。海外においても、欧米での看護師不足や金利上昇の影響が残る中、先進国、新興国ともに医療の質向上と効率化に資する医療機器の需要は概ね堅調に推移しました。国内において消耗品・サービス事業が想定を上回って推移し、海外においては為替が円安に推移していることから通期の業績予想を上方修正しました。

長期安定配当を継続

株主様への還元につきましては、長期安定配当の基本方針を継続し、当期の1株当たり中間配当金は30円とさせていただきます。引き続き、中期計画の達成に向けて全社一丸となって取り組みます。株主の皆様におかれましては、より一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

次期中期経営計画

「BEACON 2030 Phase II」を策定中

2024年4月からスタートする次期中期経営計画では、「Phase I」における基盤の強化により生み出した利益を活用し、新たな成長領域への投資を本格化する「成長への投資」フェーズに移行する予定です。「グローバルな医療課題の解決で、人と医療のより良い未来を創造する」という長期ビジョンの実現に向け、収益改善と再投資を効果的に行い、持続的成長と企業価値向上に注力します。次期中期経営計画は2024年3月～5月に公表する予定です。

【経営】コンプライアンスの徹底・ガバナンスの強化

- ・全ての再発防止策の導入・実施が完了、再発防止策実行管理委員会からコンプライアンス委員会に活動を引継ぎ
- ・リスクマネジメント委員会を新設

【事業】既存事業の収益性の改善・戦略的な先行投資

- ・医用テレメータ WEP-1600を発売
- ・米国で人工呼吸器 NKV-440のFDA承認を取得、下期発売予定
- ・全静脈麻酔支援シリンジポンプ制御ソフトウェア ROP-1680を発売、2023年度グッドデザイン賞を受賞

▶ [詳細はP2「トピックス」へ](#)

【組織】グローバルSCMの構築・コーポレート主要機能の強化

- ・品質管理本部を新設し、品質管理統括部、グローバル品質統括部、品質マネジメント統括部を編入
 - ・技術戦略本部に技術戦略統括部を設置、生産技術統括部を編入
- ▶ [詳細はP5「日本光電をもっと知る」へ](#)
- ・インド新試薬工場の建屋が完成（2024年夏に稼働開始予定）